

団体名	大竹市	所属	消防本部	他団体等との連携	企業
連絡先	消防課 (0827)54-0119				

取組事例名	大竹HAZMAT ^{ハズマツト} 発隊	取組期間	平成24年度～
--------------	------------------------------	-------------	---------

取組の概要 ～ 化学災害への備え

全国で頻発する重大な石油コンビナート事故に加え、本市の石油コンビナート工場の老朽化が著しいことから、通常の災害と異なり、独自の対応が必要な石油コンビナート等の化学災害に対応するため、高度な専門知識と訓練を受けた精鋭部隊である「大竹HAZMAT」を発隊させた。

取組の背景 ～ 死者を伴う重大事故の頻発、工場の老朽化

平成23年11月に東ソー(株)南陽事業所、平成24年4月には三井化学(株)岩国・大竹工場で死傷者を伴う爆発火災、平成24年9月の(株)日本触媒姫路製作所では、消防隊員1名殉職、負傷者35名(消防23名)を生じる重大な石油コンビナート事故が発生した。

また、本市の石油コンビナート工場は、操業から50年余り経過し老朽化が著しい。

取組のねらい ～ 重大事故と二次災害の防止

事故に至るまでの前兆現象を分析し、重大事故を防止すること。

事故が発生した場合に、現場で災害活動を行う工場関係者、消防隊員及び工場周辺に居住する市民を二次災害から守ること。

取組の具体的内容 ～ 企業防災担当者との連携による「警防計画」の作成

「大竹HAZMAT」発隊に当たり、石油コンビナートを抱える企業と災害時の対応について協議と訓練を重ねた。

(1) 問題点等の抽出

具体的には、企業の防災担当者、①大竹HAZMATの活動能力、②企業の化学物質に対する専門知識、③起こり得る災害の形態等についてミーティングを重ね、考えられる問題点等を抽出した。

(2) 図上訓練の実施と「警防計画」の作成

次に、問題点等を踏まえ机上で行う図上訓練を行い、①発災から災害終息までの流れ、②企業、消防及び関係機関の連携、③後方支援体制等について検証を重ね、実際に重大事故が発生した場合の行動指針となる「警防計画」を作成した。

なお、この「警防計画」は、活動方針等を含めた計画表、チェックリスト、図面等の支援情報から成り、企業と合同で作成したことにより、災害時には企業側と共通の認識で災害対応に当たることが可能となった。

今後は、危険が潜む施設の「警防計画」を順次作成するとともに、計画を作成した施設について、実訓練を重ねていく計画であり、市内3企業と平成25年7月、9月、12月に個別に訓練を行う計画としている。



(大竹HAZMATの装備)



(訓練の様子)



(企業との合同調査の様子)

取組を進めていく中での課題・問題点 ～ 職員のレベルアップ, 効率の良いシステムの構築

- (1) 重大事故は、専門知識を有する企業関係者が立ち会っている中でも発生している。大竹HAZMATは、企業関係者の判断ミスによるミスリードを防ぐために、関係者と同等の知識を取得し、適切なアドバイス等を行う必要がある、如何に職員全体のレベルアップを行うかが課題である。
- (2) また、消防本部の規模が小さいため、人員及び資機材に限りがあり、効率良く運用するためのシステム構築も課題となっている。

創意工夫した点 ～ 職員研修の充実, 効率の良い災害対応

(1) 職員研修の充実について

陸上自衛隊化学学校で研修を受けた大竹HAZMAT隊員の中から研修指導者を指名し、石油コンビナート災害を想定した各種研修を行った。

右の写真は、空き缶を利用して1/400スケールの模擬タンクを作成し、消火方法等を実験したものである。



(職員研修の様子)

(2) 効率の良い災害対応について

安全面を考慮した上で、応援隊員が到着するまでの災害対応を行うため、初期に収集すべき情報及び活動優先順位の精査を行うことで、無駄を徹底的に省き、事前に想定し得る事象をコンパクトに「警戒計画」に盛り込んだ。

また、企業の自衛消防隊と調整し、役割分担を明確化した。

取組の成果(効果) ～ 企業との連携強化, 防災意識の向上, 消防庁長官賞受賞

(1) 企業との連携強化

ミーティング、図上訓練を通じて企業側の防災担当者との信頼関係が構築された。

また、企業側幹部の防災に対する認識も高まって来た。

(2) 化学災害に対する反響

大竹HAZMATが発隊し、活動内容等を各種メディアが取り上げることで、市民の方から「身近にある石油コンビナートの危険性を再認識した。」との反響の声が聞かれ、市全体の防災意識が高まった。(NHK総合 お好みワイドひろしま等で特集)

(3) 研究結果

大竹HAZMATの隊員が発表した論文『石油コンビナート等特別防災区域内における「未来の重大事故」を無くすための提言について』が消防庁長官賞(危険物保安技術協会が主催)を受賞した。

今後の展開 ～ 災害対応能力の向上, 国及び県への働きかけ

石油コンビナートに係る重大事故から、人命を守るという使命達成のため、県内で同様に石油コンビナートを抱える福山市及び江田島市等と連携を取りながら、災害対応能力向上を目指していくこととしている。

また、国(総務省消防庁)に、石油コンビナート災害に特化した研究グループの立ち上げ及び必要な資機材の無償貸与を働きかけるとともに、広島県消防学校へは、「コンビナート防災科」を設置し、消防職員や企業関係者への教育の場を作るよう提言していきたい。

他団体へのアドバイス ～ 一步を踏み出す勇気

法令・体制は、大事故や大惨事が起きない限りなかなか強化されないものである。

大竹HAZMATを発隊させた経緯も、石油コンビナートに係る災害が全国で頻発し、平成24年6月には管内化学工場で粉塵爆発が起こり、複数の負傷者が発生したことにあった。

大竹HAZMATは、我々、消防隊員の危機感の表れであり、石油コンビナート災害に立ち向かう気概でもある。今後も、停滞することなく走り続けなければならない。

全国には、原子力発電所を抱える自治体、基地を抱える自治体等の地域特性があるが、考える災害を想定し、大事故・大災害が発生する前に、自分たちの気概を表わす一步を踏み出す勇気が必要である。